

Ⅲ 保護者集計・分析

問1 お子さんは学校に行くのを楽しみにしていますか。

	とても楽しみにしている	少しは楽しみにしている	あまり楽しみにしていない	ほとんど楽しみにしていない
小学校	1,728	1,199	150	14
%	55.9%	38.8%	4.9%	0.5%
中学校	615	777	120	30
%	39.9%	50.4%	7.8%	1.9%
全体	2,343	1,976	270	44
%	50.6%	42.7%	5.8%	0.9%

- 「とても楽しみにしている」「少しは楽しみにしている」を合計すると93.3%である。
- 小学校と中学校の保護者との比較では、全体的な傾向としては大きな差異はないが、「とても楽しみにしている」については、小学校が55.9%に対し、中学校は39.9%と減少する。
- 保護者の数値は、児童生徒の数値とほぼ同様であり、児童生徒の意識と保護者の意識は、ほぼ同じであるといえる。

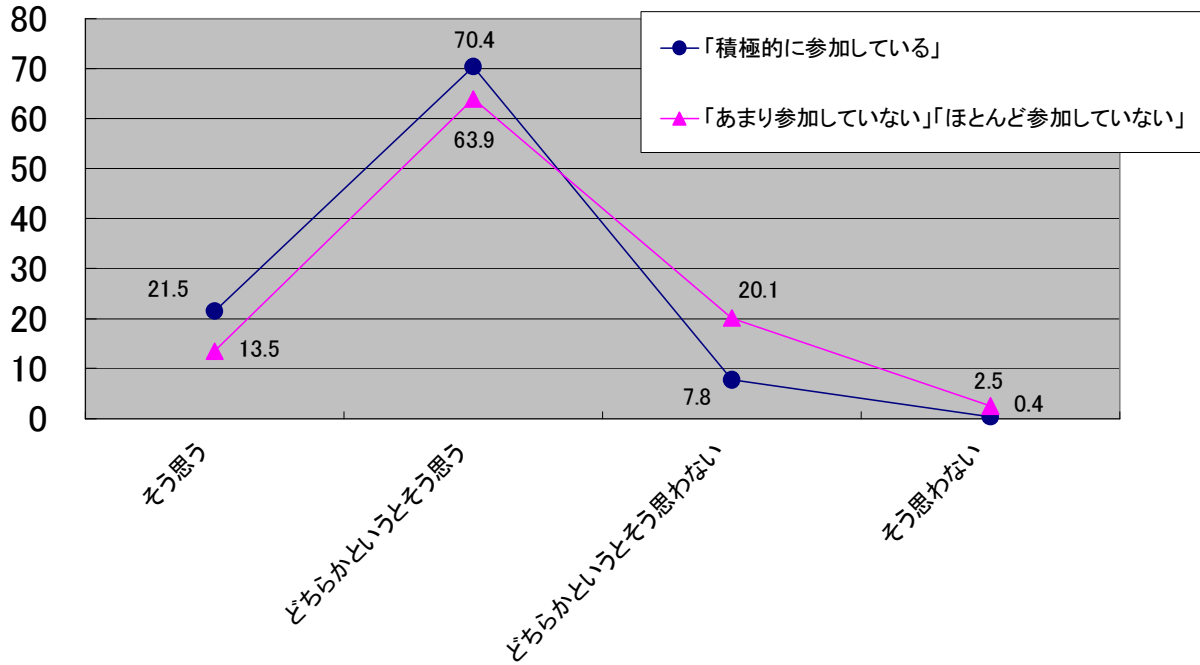
問2 あなたは学校行事（授業参観、PTAの会合や行事、体育祭や音楽発表）に積極的に参加していますか。

	積極的に参加している	ある程度参加している	あまり参加していない	ほとんど参加していない
小学校	1,078	1,844	130	40
%	34.9%	59.6%	4.2%	1.3%
中学校	298	903	255	99
%	19.2%	58.1%	16.4%	6.4%
全体	1,376	2,747	385	139
%	29.6%	59.1%	8.3%	3.0%

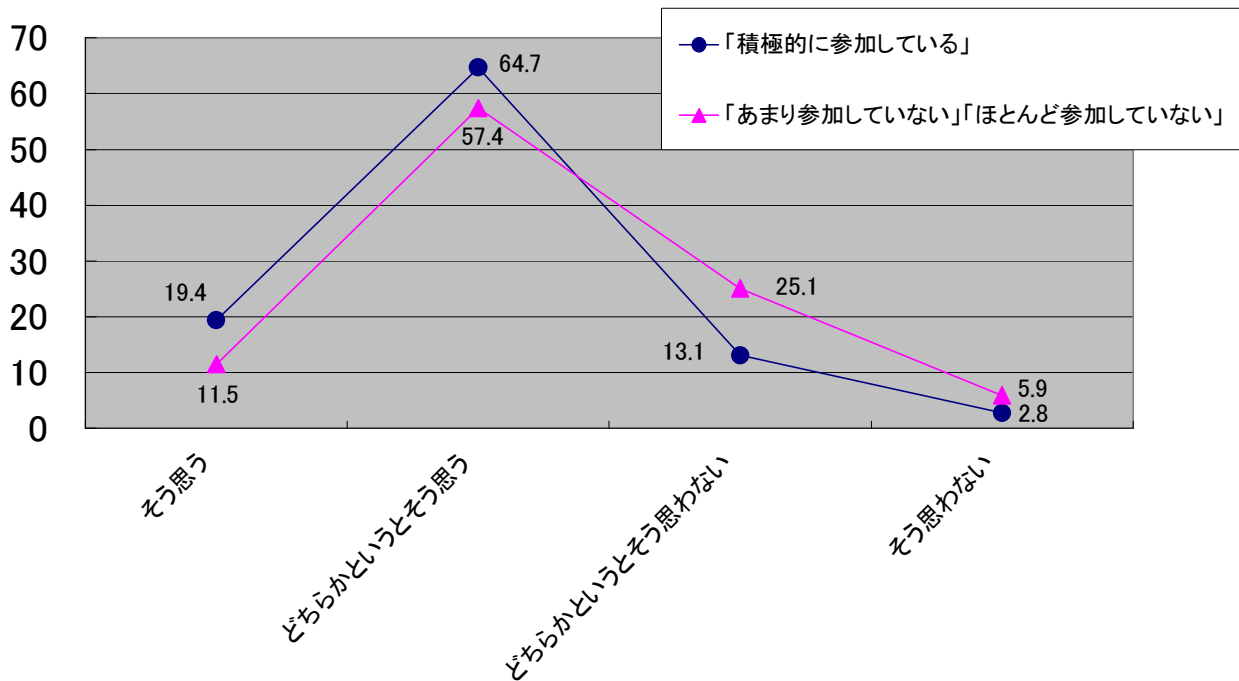
- 全体では「積極的に参加している」「ある程度参加している」は、88.7%である。
- 「積極的に参加している」は、小学校保護者は34.9%であるのに対し、中学校保護者は、19.2%と減少する。また、「あまり参加していない」は、小学校4.2%に対し、中学校は16.4%であり、中学校になると保護者の学校行事等への参加が減少する傾向が、数値に表れている。

〈参考〉保護者の学校行事への参加状況とその他の項目の関連

◇ 「子どもにきちんとしつけをしている方だと思いますか。」への回答との関連

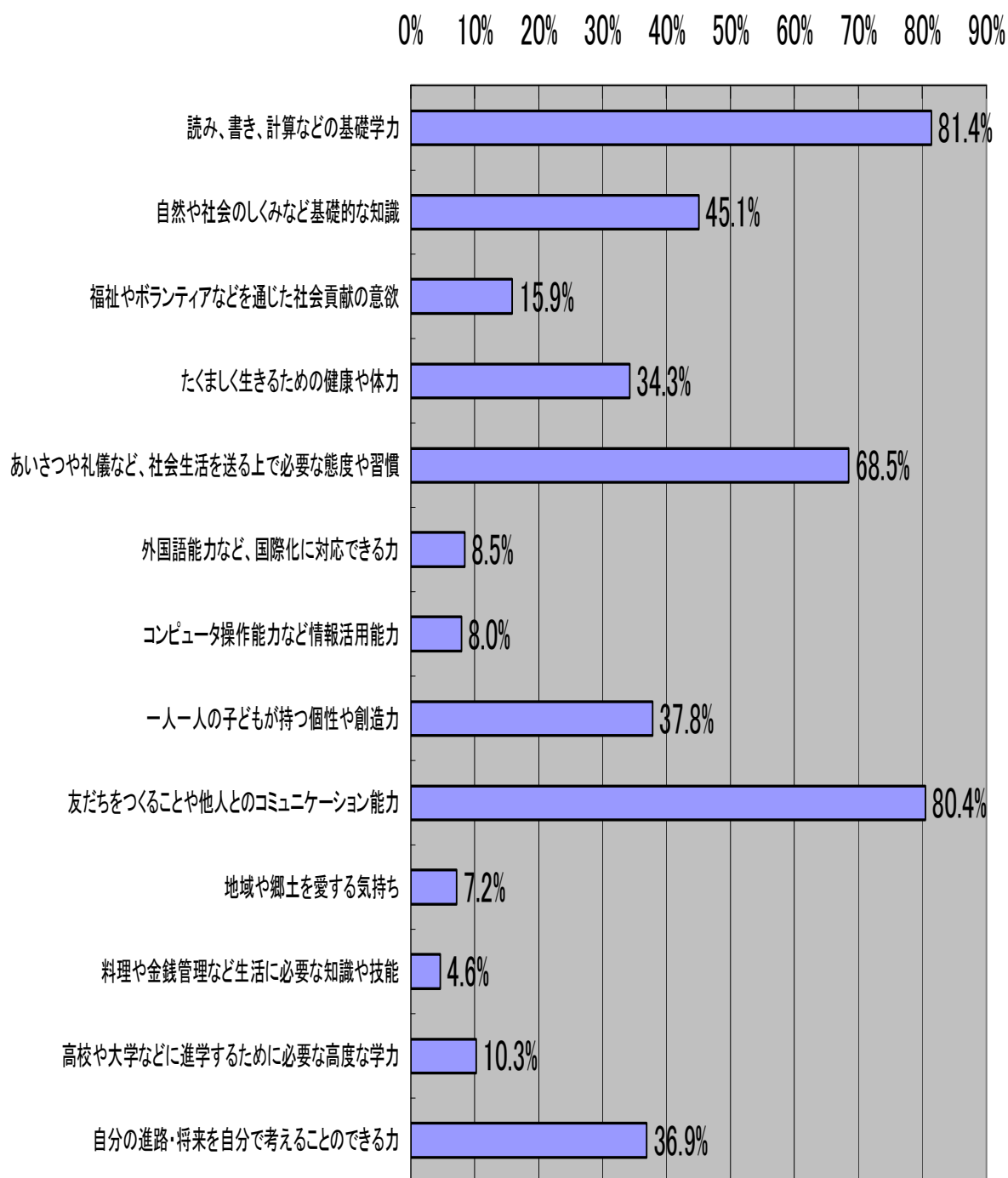


◇ 「自分の学校区（地域）で、子どもの教育について家庭・地域・学校の連携・協力が十分行われていると思いますか。」への回答との関連



○ 学校行事に「積極的に参加している」保護者は、子どもにきちんとしつけをしていると考えている割合が高い。また、自分の学校区の家庭・地域・学校の連携・協力の現状についても肯定的に捉えている割合が高い。

問3 小中学校の教育で、どんな力を身に付けさせることを期待していますか。
(○は5つ以内)



- 全体では「読み、書き、計算などの基礎学力」が81.4%、「友だちをつくることやコミュニケーション能力」が80.4%と多く、「あいさつや礼儀など、社会生活を送る上で必要な態度や習慣」が68.5%で続く。
- 小学校、中学校別に見ると、「自分の進路・将来を自分で考えることのできる力」は、小学校の保護者29.5%に対し、中学校の保護者は51.6%である。また、「読み、

書き、計算などの基礎学力」については小学校の保護者が、「高校や大学へ進学するために必要な高度な学力」は中学校の保護者がそれぞれ約10ポイント高く、子どもの発達段階に応じて保護者の期待は変化していることがわかる。

- 年代別に見ると、15ポイント近くの開きが見られる項目は、「あいさつや礼儀などの態度や習慣」については、20代保護者の82.2%に対し、40代、50代保護者は65%程度である。また、「高度な学力」や「進路・将来を考える力」は、20代保護者では、28.7%と少ないが、年代を追うごとに増加し、40代保護者では40%を超え、50代保護者では、48.3%となる。子どもの年齢に応じて保護者の意識も変化して、それが保護者の年代の集計結果に表れていると思われる。
- 「たくましく生きる健康や体力」は、34.3%で、保護者としては7番目であるが、教員では、52.7%と、4番目に高い項目である。

問4 子どもにきちんとしつけをしている方だと思いますか。

	そう思う	どちらかというと思う	どちらかというと思わない	そう思わない
小学校	511	2,184	378	23
%	16.5%	70.5%	12.2%	0.7%
中学校	265	1,064	202	19
%	17.1%	68.6%	13.0%	1.2%
全体	776	3,248	580	42
%	16.7%	69.9%	12.5%	0.9%

- 全体では「そう思う」は16.7%、「どちらかというと思う」は69.9%であり、86.6%の保護者が、子どもにきちんとしつけをしている方だと考えている。
- 教員意識調査では、「家庭では、子どもにきちんとしつけをしていると思いますか。」という質問に、「そう思う」は2.0%、「ややそう思う」も33.1%である。家庭における子どものしつけ等について、保護者の意識と、実際に子どもたちに接している教員が感じていることとは、大きな開きがあることがわかる。
- 「どちらかというと思わない」「そう思わない」は、13.4%であるが、長岡市全体の保護者数で換算すると、約2,700人という、非常に多い人数である。

問5 具体的な項目について、お聞かせください。

- ① 「おはよう」「いただきます」「ありがとう」などのあいさつをできるようにさせる。

	かなり心がけている	ある程度心がけている	あまり心がけていない	ほとんど心がけていない
小学校	1,698	1,309	74	12
%	54.9%	42.3%	2.4%	0.4%
中学校	734	745	65	8
%	47.3%	48.0%	4.2%	0.5%
全体	2,432	2,054	139	20
%	52.4%	44.2%	3.0%	0.4%

- 「かなり心がけている」「ある程度心がけている」は、96.6%であり、ほとんどの保護者が心がけている。
- 児童生徒の実態調査の「あなたは、朝起きたときや夜寝る前に家の人にあいさつをしますか」という質問で、「かならずする」「だいたいする」は、小学生82.6%、中学生66.9%である。また、「あまりしない」「ほとんどしない」は小学生17.5%、中学生33.1%であり、保護者が意識している割合と実際の子どもの実態にはずれがある。

- ② 人に迷惑をかけない、またかけたときはきちんとあやまることを教える。

	かなり心がけている	ある程度心がけている	あまり心がけていない	ほとんど心がけていない
小学校	2,148	902	41	5
%	69.4%	29.1%	1.3%	0.2%
中学校	1,010	524	13	5
%	65.1%	33.8%	0.8%	0.3%
全体	3,158	1,426	54	10
%	67.9%	30.7%	1.2%	0.2%

- 「かなり心がけている」67.9%、「ある程度心がけている」30.7%、合計すると98.6%とほとんどの保護者が子育てで意識している事項と言える。
- 教員アンケートの「家庭教育で親が心がけるべきことについて、特に重要だと思うこと」の質問で、一番数値の高い項目である。

③ 物事を深く考える力をつけるために読書などの習慣を付けさせる。

	かなり心がけている	ある程度心がけている	あまり心がけていない	ほとんど心がけていない
小学校	238	1,475	1,188	192
%	7.7%	47.6%	38.4%	6.2%
中学校	116	668	634	134
%	7.5%	43.0%	40.9%	8.6%
全体	354	2,143	1,822	326
%	7.6%	46.1%	39.2%	7.0%

- 「かなり心がけている」「ある程度心がけている」は、53.7%であり、あいさつや礼儀などの基本的な生活習慣に関する項目と比較すると保護者の意識は高いとは言えない。
- 児童生徒の生活実態調査では、1週間に読書をする時間（学校での朝読書や雑誌、マンガは除く）で、「ほとんど読まない」「30分より少ない」は、小学校54.9%、中学校63.3%である。様々なところで、読書の重要性が指摘されているが、実際の子どもたちの生活に読書は浸透していない状況がある。テレビ等のメディアの関係もあると思うが、小さな頃から、本を読む習慣を家庭、学校が協力して身に付けることが必要である。

④ 欲しいものがあってもすぐには買い与えず、がまんする経験をさせる。

	かなり心がけている	ある程度心がけている	あまり心がけていない	ほとんど心がけていない
小学校	774	2,052	235	31
%	25.0%	66.4%	7.6%	1.0%
中学校	376	1,042	122	14
%	24.2%	67.0%	7.8%	0.9%
全体	1,150	3,094	357	45
%	24.8%	66.6%	7.7%	1.0%

- 「欲しいものがあってもすぐには買い与えず、がまんさせる経験をさせる」ことを心がけている保護者は、91.4%である。
- 9.0%以上の保護者が「欲しいものがあっても買い与えず、がまんする経験をさせる」ことを意識しているという回答であるが、子どものテレビ等の持ち物の所持率は、保護者が必要性を感じている割合より、所持している児童生徒の割合は、明らかに多い状況がある。

⑤ 家族団らんの時間をつくり、子どもの話や悩みを聞く時間をつくる。

	かなり心がけている	ある程度心がけている	あまり心がけていない	ほとんど心がけていない
小学校	687	2,041	344	22
%	22.2%	66.0%	11.1%	0.7%
中学校	378	965	192	17
%	24.4%	62.2%	12.4%	1.1%
全体	1,065	3,006	536	39
%	22.9%	64.7%	11.5%	0.8%

- 「かなり心がけている」22.9%、「ある程度心がけている」64.7%であり、合わせて87.6%の保護者が、家族団らんの時間をつくり、子どもの話や悩みを聞く時間をつくるように心がけている。
- 小学校、中学校の保護者の意識に大きな差異はない。
- 保護者の回答数の中でも、20代の保護者は101人、50代の保護者は145人と30代、40代と比較すると極端に少なく、単純に割合だけで比較できない面もあるが、「かなり心がけている」は20代保護者が14.9%と一番少なく、「あまり心がけていない」「ほとんど心がけていない」を合計した数値は、17.8%と20代保護者が、他の年代と比較すると一番高い。

〈参考〉年代別の比較

	かなり心がけている	ある程度心がけている	あまり心がけていない	ほとんど心がけていない
20代	14.9%	67.3%	15.8%	2.0%
30代	23.2%	64.9%	11.2%	0.7%
40代	23.0%	64.3%	11.7%	0.9%
50代	22.8%	65.5%	11.0%	0.7%

- 教員アンケートでは、家庭の教育力が低下した理由や原因として、「一家団らんや親子のふれあう機会が不足している」は4番目に高い項目である。

⑥ 我が家のきまりやルールをつくり、子どもに守らせるようにしている。

	かなり心がけている	ある程度心がけている	あまり心がけていない	ほとんど心がけていない
小学校	613	1,930	482	57
%	19.9%	62.6%	15.6%	1.8%
中学校	284	914	307	45
%	18.3%	59.0%	19.8%	2.9%
全体	897	2,844	789	102
%	19.4%	61.4%	17.0%	2.2%

- 全体では、「かなり心がけている」19.4%、「ある程度心がけている」61.4%で、80.8%の保護者が、自分の家のきまりやルールをつくり、守らせるようにしていると回答している。
- 多くの保護者が、「我が家のきまりやルールをつくり、守らせるようにしている」実態があるので、どのようなきまりをつくり、守らせるようにしているのかなどを出し合ったり、交換し合うような取組を地域や学校で実施することも有効ではないかと考える。

⑦ 時間を守る、約束を守るなど社会生活で大切なきまりやルールを教える。

	かなり心がけている	ある程度心がけている	あまり心がけていない	ほとんど心がけていない
小学校	1,507	1,466	108	7
%	48.8%	47.5%	3.5%	0.2%
中学校	764	754	26	6
%	49.3%	48.6%	1.7%	0.4%
全体	2,271	2,220	134	13
%	49.0%	47.9%	2.9%	0.3%

- 「かなり心がけている」「ある程度心がけている」を合計すると96.9%となり、ほとんどの保護者が時間を守る、約束を守るなど社会生活で大切なきまりやルールを教えるように心がけている。

⑧ 子どもの家事分担を決め、家の仕事をやらせている。

	かなり心がけている	ある程度心がけている	あまり心がけていない	ほとんど心がけていない
小学校	373	1,381	1,122	207
%	12.1%	44.8%	36.4%	6.7%
中学校	187	679	538	145
%	12.1%	43.8%	34.7%	9.4%
全体	560	2,060	1,660	352
%	12.1%	44.5%	35.8%	7.6%

- 56.6%の保護者が、子どもの家事分担を決めて、家の仕事をやらせるようにしているが、「かなり心がけている」は、12.1%と少ない。

〈参考〉「長岡っ子の家庭生活」（平成15年度：長岡市生徒指導研究会）との比較

	必ずする手伝い(きめられた仕事)がありますか			
	「長岡っ子の家庭生活」(平成15年度調査:市生研)		長岡市の児童生徒調査(平成18年度)	
	ある	ない	ある	ない
小学生	55.7%	44.2%	47.8%	52.2%
中学生	40.4%	58.9%	33.3%	66.7%

- 参考資料で示したように、平成15年度に長岡市生徒指導研究会が実施した「長岡っ子の家庭生活」では、「必ずする手伝い(仕事)がありますか」という問いに「ある」と回答した小学生は55.7%、中学生は40.4%であった。しかし、今回実施の児童生徒意識調査では、「自分が必ずする手伝いや決められた仕事」に「ある」と回答した小学生は47.8%、中学生は33.3%である。通塾や習い事、部活動等、子どもの生活も多忙になっている現状があるが、家庭の役割や責任を果たすことに関する親や子の意識が低下している表れともとれる。
- 平成18年度熱中！感動！夢づくり推進会議「キャリア教育支援部会」では、子どもたちに将来職業人、社会人となったときに必要となる基礎的な能力を身に付けるために親や家庭の果たす役割の大きさが指摘されている。家庭内でも家族の一員として、責任を持って役割を果たし、自信をつけたり、周囲に感謝されるような経験を親が意図的に子どもに与えていくことが大切である。また、このようなことは子どもが小さい頃から継続して実施すべきことであると考えられる。

⑨ 規則正しい生活、食事のマナーなど基本的な生活習慣を身に付けさせる。

	かなり心がけている	ある程度心がけている	あまり心がけていない	ほとんど心がけていない
小学校	959	1,917	187	16
%	31.1%	62.3%	6.1%	0.5%
中学校	399	1,009	133	7
%	25.8%	65.2%	8.6%	0.5%
全体	1,358	2,926	320	23
%	29.3%	63.2%	6.9%	0.5%

- 全体では「かなり心がけている」29.3%、「ある程度心がけている」63.2%であり、合計すると92.5%の保護者が「かなり心がけている」「ある程度心がけている」と回答している。
- 年代別では、「かなり心がけている」は20代保護者が一番多く46.5%であり、年代を追うごとに下がり、50代は25%程度となる。特に小学校低学年の子どもを持つ若い保護者が意識していることが数値に現れている。

⑩ 毎日朝食を食べさせる。

	かなり心がけている	ある程度心がけている	あまり心がけていない	ほとんど心がけていない
小学校	2,668	340	61	10
%	86.7%	11.0%	2.0%	0.3%
中学校	1,314	201	34	2
%	84.7%	13.0%	2.2%	0.1%
全体	3,982	541	95	12
%	86.0%	11.7%	2.1%	0.3%

- 「かなり心がけている」は86.0%、「ある程度心がけている」は11.7%であり、ほとんどの保護者が、毎日朝食を食べさせることを心がけている。
- 「あまり心がけていない」「ほとんど心がけていない」には、意識するまでもなく、朝食が毎日の習慣になっているという家庭も含まれていると考えられる。

〈参考〉児童生徒の朝食の実態

	朝食は、どうしていますか			
	いつも食べる	たまに食べないことがある	食べない時と食べる時が半々	ほとんど食べない
小学4年	84.4%	12.1%	2.4%	1.1%
中学1年	84.3%	10.1%	3.8%	1.8%
中学2年	81.5%	12.0%	3.4%	3.1%

- 児童生徒アンケートの数値と、保護者の数値は大きな差異がなく、朝食に関することは、保護者が心がけていることが、子どもの実際に反映されているといえる。
- 朝食に関する児童生徒の実態は、小学校4年生から中学校まで年齢が上がっても大きな数値の変化がない。このことから、食事に関する基本的な生活習慣は、小さな頃に定着させたことが、ずっと引き継がれることであり、小さなころの家庭でのしつけや習慣が重要であるといえる。

⑪ テレビやゲームの時間を決めて、守らせるようにしている。

	かなり心がけている	ある程度心がけている	あまり心がけていない	ほとんど心がけていない
小学校	740	1,738	521	88
%	24.0%	56.3%	16.9%	2.9%
中学校	247	904	332	67
%	15.9%	58.3%	21.4%	4.3%
全体	987	2,642	853	155
%	21.3%	57.0%	18.4%	3.3%

- 「かなり心がけている」「ある程度心がけている」を合計すると78.3%である。また、「あまり心がけていない」「ほとんど心がけていない」は21.7%である。
- 「かなり心がけている」は、20代保護者は27.7%であるが、中学校の保護者では40代15.5%、50代13.4%と減少する。

〈参考〉平日、テレビやビデオ（DVD）などを3時間以上見る児童生徒の割合

小学4年	小学5年	小学6年	中学1年	中学2年	中学3年
14.3%	19.5%	25.5%	22.5%	28.8%	25.3%

- 平日3時間以上テレビ等を見る子どもの割合は、小学校4年生の14.3%から学年が上がるにつれて上昇し、小学校6年生以上は、4人に一人が平日にテレビ等を3時間以上見ている。年齢が上がるにつれて、テレビの所持率が上がることが大きな要因であるが、保護者も子どもの年齢が上がるほど、子ども任せにして、テレビ等の時間を決め、守らせるようにする意識が低いことも一因と考えられる。

⑫ 子どもに言うだけでなく、自らお手本となるような生活や生き方を心がけている。

	かなり心がけている	ある程度心がけている	あまり心がけていない	ほとんど心がけていない
小学校	349	2,132	540	56
%	11.3%	69.3%	17.5%	1.8%
中学校	181	1,076	248	37
%	11.7%	69.8%	16.1%	2.4%
全体	530	3,208	788	93
%	11.5%	69.5%	17.1%	2.0%

- 「かなり心がけている」は11.5%で、「ある程度心がけている」69.5%と合計すると、81.0%の保護者が、自らお手本となるように心がけていると回答している。
- 「あまり心がけていない」「ほとんど心がけていない」は、19.1%である。大人が自分の心がけや生活状況が子どもに大きな影響を及ぼすということを自覚する必要があるといえる。

〈参考〉年代別の割合

	かなり心がけている	ある程度心がけている	あまり心がけていない	ほとんど心がけていない
20代	12.9%	62.4%	20.8%	4.0%
30代	10.5%	67.9%	19.6%	2.0%
40代	11.9%	71.3%	14.8%	2.0%
50代	19.3%	69.0%	10.3%	1.4%

- 大きな差異ではないが、若い年代の保護者ほど、「あまり心がけていない」「ほとんど心がけていない」の割合が増える。
- 「家庭の教育力低下の理由や原因」として保護者があげている第1位は、「社会のルールやマナーに無関心な親が増えた」である。自分はある程度、子どもの見本になるような生活や生き方を心がけていると考えながらも、他の親はそうでない傾向があると周囲を見ている保護者が多いのではないかと考えられる。

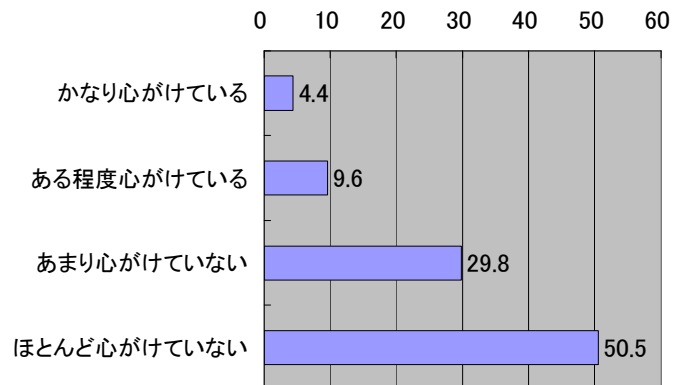
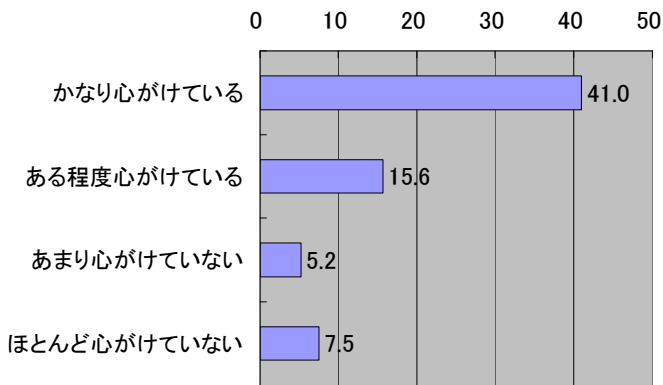
〈参考〉「子どもに言うだけでなく、自らお手本となるような生活や生き方を心がけている」への回答と他項目との関連

◇ 「子どもにきちんとしつけをしている方だと思いますか。」への回答の割合

「そう思う」

「どちらかというと思わない」

「そう思わない」

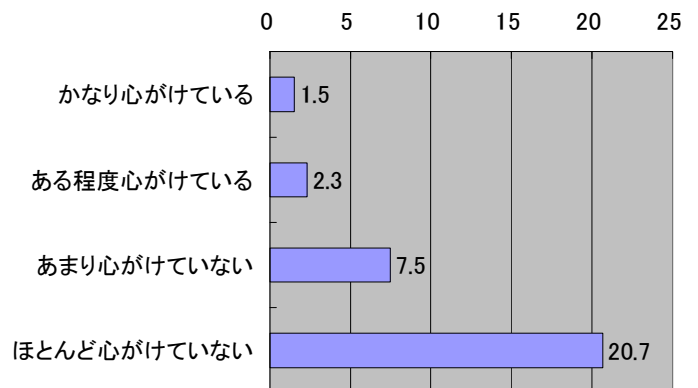
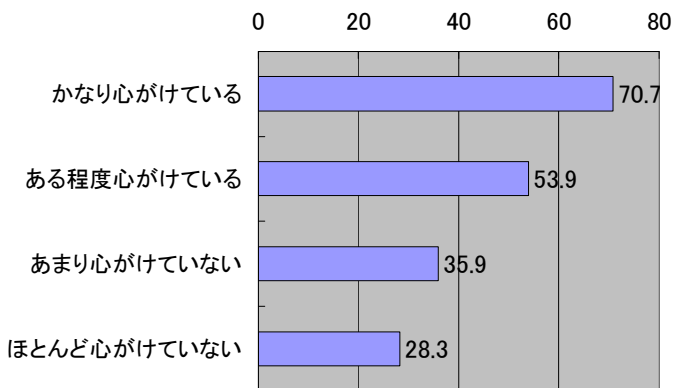


◇ 「「おはよう」「いただきます」「ありがとう」などのあいさつをできるようにさせる」への回答の割合

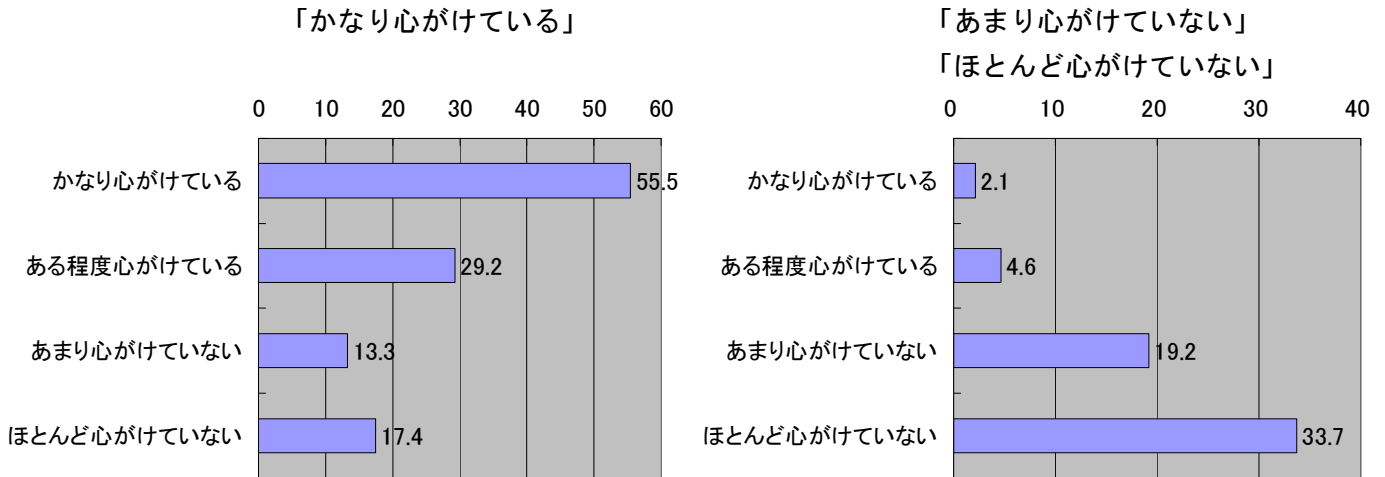
「かなり心がけている」

「あまり心がけていない」

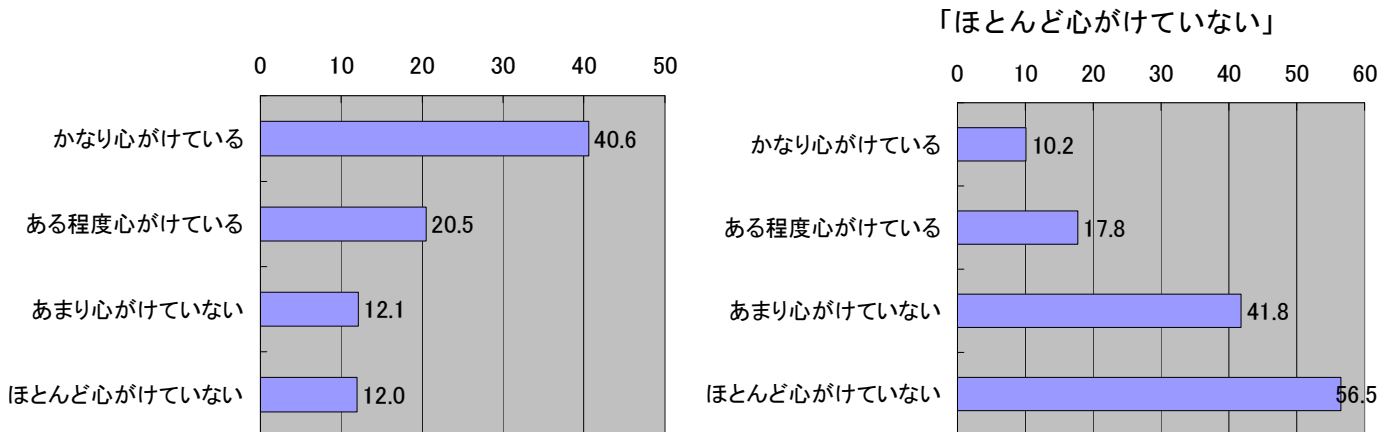
「ほとんど心がけていない」



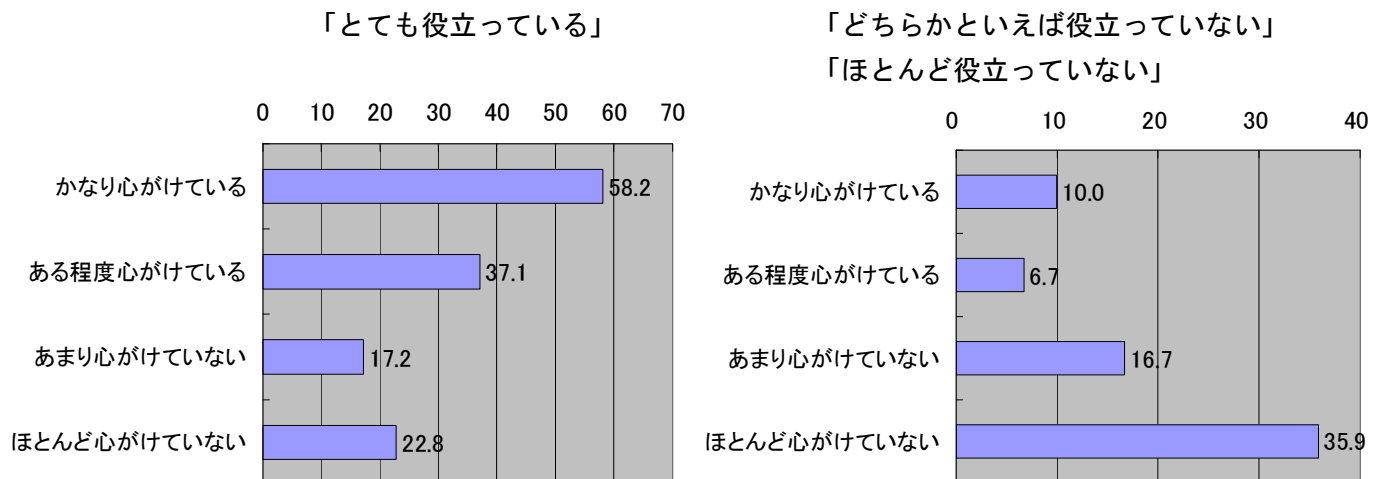
◇ 「規則正しい生活、食事のマナーなど基本的な生活習慣を身に付けさせる」への回答の割合



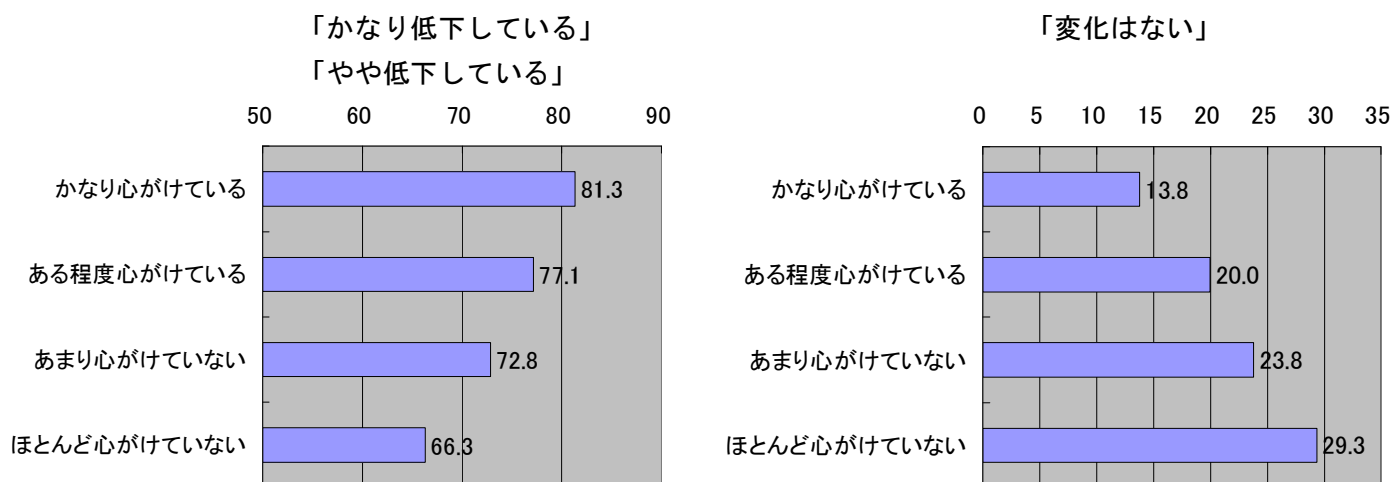
◇ 「テレビやゲームの時間を決めて、守らせるようにしている。」への回答の割合



◇ 「あなたが子どもの頃、親から言われたことやしつけは今の生活や子育てに役立っていますか。」への回答の割合



◇ 「家庭の教育力が低下しているのではないかという声もありますが、あなたはどのように思いますか。」への回答の割合



- 子どもに言うだけでなく、自らお手本となるような生活を心がけるように意識している親は、家庭生活において「おはよう」などのあいさつ、規則正しい生活などの基本的な生活習慣やテレビやゲームの時間を決めて守らせることを「かなり心がけている」という割合が高い。また、子どもにきちんとしつけをしているという意識も高い。
- 子どもに言うだけでなく、自らお手本となるような生活を心がけている保護者は、自分の子どもの頃の家庭でのしつけや親に言われたことが現在の生活や子育てに役立っているという肯定的な意識が強い。
- 自らお手本となるような生活を心がけている保護者ほど、家庭の教育力の低下傾向を感じている割合が高い。
- 「子どもは親の背中を見て育つ」という言葉もあり、子どものよりよい成長のためには、親や大人が子どもに言うだけでなく、自ら手本となるような生活や生き方をしていくことが大切である。

問6 あなたが子どもの頃、親から言われたことやしつけは今の生活や子育てに役立っていますか。

	とても役立っている	どちらかといえば役立っている	どちらかといえば役立っていない	ほとんど役立っていない
小学校	1,121	1,678	220	55
%	36.5%	54.6%	7.2%	1.8%
中学校	536	855	122	33
%	34.7%	55.3%	7.9%	2.1%
全体	1,657	2,533	342	88
%	35.9%	54.8%	7.4%	1.9%

- 「とても役立っている」「どちらかといえば役立っている」を合わせると、90.7%の保護者が、自分が子どもの頃に言われたことやしつけが、今の生活や子育てに役立っていると考えている。
- 小学校、中学校の別、年代の違い等で大きな差異はない。

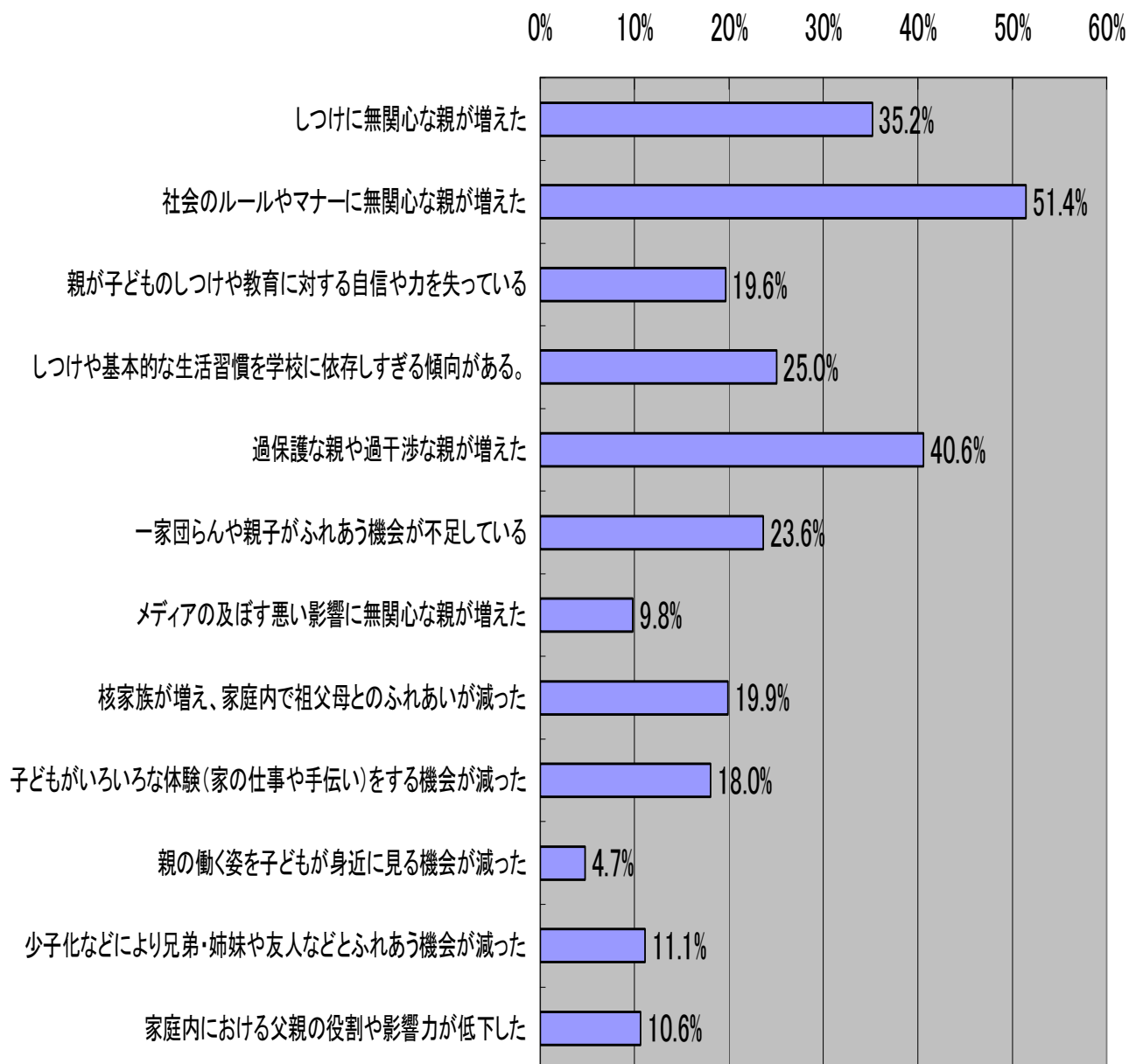
問7 家庭の教育力が低下しているのではないかという声もありますが、あなたはどのように思いますか。

	かなり低下している	やや低下している	変化はない	やや向上している	かなり向上している
小学校	609	1,719	632	99	16
%	19.8%	55.9%	20.6%	3.2%	0.5%
中学校	389	824	307	26	3
%	25.1%	53.2%	19.8%	1.7%	0.2%
全体	998	2,543	939	125	19
%	21.6%	55.0%	20.3%	2.7%	0.4%

- 「かなり低下している」は、21.6%であり「やや低下している」55.0%を合計すると76.6%の保護者が家庭の教育力は低下傾向にあると考えている。
- 年代別に見ると、「かなり低下している」と回答した保護者の割合は、年代が上がるほど増え、「変化はない」と回答した保護者の割合は、年代が下がるほど増える。この傾向は、各年代層の保護者が、「家庭の教育力」を自分の育った時代や経験と比較して捉えた結果と考えられる。

※ 「かなり低下している」「やや低下している」と回答した人のみ

問8 低下していると回答した理由や低下の原因はなんだと思いますか。大きな原因だと思うものに○をつけてください。(○は3つ以内)



- 理由や原因として挙げられた上位の項目は、①「社会のルールやマナーに無関心な親が増えた」、②「過保護な親や過干渉な親が増えた」、③「しつけに無関心な親が増えた」であり、いずれも、親自身に原因や理由があるという項目である。
- 「しつけや基本的な生活習慣を学校に依存しすぎる傾向がある」は、教員調査で45%を超え、2番目に高い項目であるが、保護者調査では、25.0%で4番目であり、保護者と教員の意識には差がある。

問9 子どもの基本的な生活習慣（起床・睡眠・食事など）の定着は、学習意欲や成績に関係があるという調査結果もありますが、あなたはどのように思いますか。

	かなり関係があると思う	ある程度関係があると思う	あまり関係がないと思う
小学校	1,863	1,139	66
%	60.7%	37.1%	2.2%
中学校	908	596	32
%	59.1%	38.8%	2.1%
全体	2,771	1,735	98
%	60.2%	37.7%	2.1%

- 全体では「かなり関係があると思う」は、60.2%、「ある程度関係があると思う」は、37.7%で、97.9%の保護者が、基本的な生活習慣の定着と学習意欲、成績等に関係があるという認識を持っている。この数値は、教員の意識調査とほぼ同じである。

〈参考〉年代別の比較

	かなり関係があると思う	ある程度関係があると思う	あまり関係がないと思う
20代	45.5%	49.5%	5.0%
30代	60.1%	37.8%	2.1%
40代	61.2%	36.9%	1.9%
50代	55.2%	40.6%	4.2%

- 全体的には、基本的な生活習慣の定着と学習意欲や成績の関連はあると考えているが、「かなり関係があると思う」と強い関連性についての意識は、保護者の年代層によって若干の違いがある。

問10 子どもの部屋にテレビ（ビデオ）が必要だと思いますか。

	必要だと思う	ある程度必要だと思う	あまり必要でないと思う	必要ないと思う
小学校	50	410	1,009	1,603
%	1.6%	13.3%	32.8%	52.2%
中学校	41	301	516	687
%	2.7%	19.5%	33.4%	44.5%
全体	91	711	1,525	2,290
%	2.0%	15.4%	33.0%	49.6%

- 「必要だと思う」は2.0%で子どもの部屋にテレビの必要性を強く感じている保護者は少ない。「ある程度必要だと思う」を合計しても、17.4%であり、多くの保護者が子どもの部屋にテレビ（ビデオ）などはあまり必要ないと感じている。
- 教員調査では、「必要ないと思う」75.7%、「あまり必要でないと思う」20.0%であり、教員の95.7%は、子どもの部屋にテレビ（ビデオ）は必要ないと考えている。

〈参考〉児童生徒調査 「あなたの部屋にはテレビがありますか」

	ある	ない
小学6年	34.4%	65.6%
中学3年	43.4%	56.6%

- 各家庭で様々な状況があると考えられるが、児童生徒アンケートでは、自分の部屋（兄弟姉妹と一緒にの部屋）を持っている、小学生の約3割、中学生の約4割が、テレビがあると回答している。保護者や教員の意識と実際の子どもの実態にはずれがある。

〈参考〉児童生徒調査 「平日の夜は、何時ころに寝ていますか」

	11時頃	12時ころ(それより遅い)
小学6年	25.1%	3.2%
中学3年	48.2%	39.4%

〈参考〉児童生徒調査 「あなたの家庭学習のようすについて教えてください」

	宿題があるときだけやる	宿題があってもしないことが多い
小学6年	18.6%	6.5%
中学3年	31.0%	19.4%

- 中学校3年生男子は、自分の部屋にテレビがある子どもは、約55%となる。児童生徒の調査結果から、夜の就寝時間が非常に遅いことや、あまり家庭学習がなされていない様子が見られる。このような子どもの実態とテレビ等のメディアの関係が大きいことを保護者や教員もある程度理解していることは、保護者、教員意識調査におけるテレビ等の必要性の数値からわかる。子どもに物を与えることや子どもの自主性に任せることも必要であるが、与えた物の使い方に関する約束やルールをきちんと決め、利用させることは、家庭生活における保護者の責任であることを再認識したい。

問 1 1 子ども（小学生～中学生）に携帯電話は必要だと思いますか。

	必要だと思う	ある程度必要だと思う	あまり必要ないと思う	必要ないと思う
小学校	56	647	1,066	1,287
%	1.8%	21.2%	34.9%	42.1%
中学校	35	312	496	699
%	2.3%	20.2%	32.2%	45.3%
全体	91	959	1,562	1,986
%	2.0%	20.9%	34.0%	43.2%

- 「必要ないと思う」「あまり必要ないと思う」を合計すると、約77.2%である。教員の91.6%に比較すると差はあるが、比較的多くの保護者が子ども（小学校～中学校）に携帯電話の必要性を感じていない。

〈参考〉年代別の比較

	必要だと思う	ある程度必要だと思う	あまり必要ないと思う	必要ないと思う
20代	6.1%	36.4%	25.3%	32.3%
30代	2.1%	24.0%	35.8%	38.1%
40代	1.6%	17.2%	33.0%	48.2%
50代	3.5%	17.6%	27.5%	51.4%

- 携帯電話の必要性については、年代の若い保護者ほど、必要性を感じていることがわかる。若い年代の保護者は、比較的小子どもが小さく、子どもの非常時の連絡や安全確保に必要であるという点、自分が携帯電話を持ち、その利便性を知っているという点などが理由として考えられる。
- 保護者の年代が上がると「必要だと思う」「ある程度必要だと思う」の割合は減り、「必要ないと思う」割合が増加するが、子どもの所持率は、学年が上がるほど増加し、中学3年生では約40%となる。親の意識と子どもの実態にずれがあることは、テレビ等の場合と同様である。
- 教員意識調査では、「必要だと思う」0.1%、「ある程度必要だと思う」8.2%であり、保護者以上に携帯電話の必要性はないという認識が強い。これは、小中学校での生活を考えた場合に、その必要性が高くはないことや、携帯電話を媒体とした問題行動が多発していることを考えてのことであると思われる。
- 携帯電話は、不審者対応や安全確保の面、非常時や家族との連絡等の面から、利便性も高いものであるが、メールを介して様々な人間関係のトラブルや問題行動が起きていることや危険なサイトへのアクセスで多くの被害事案が出ていることなどを考え合わせ、親が子どもに買い与える際に、必要性、利用のきまり、管理方法、危険なサイトへのアクセス制限等のサービスなどをきちんと子どもと話をするとともに、買い与えた場合の使用についても責任があることを認識する必要がある。

問 1 2 家庭・地域・学校が連携・協力し合うことは、子どもの教育に必要なことだと思いますか。

	とても必要だと思う	ある程度必要だと思う	あまり必要でないと思う	ほとんど必要ないと思う
小学校	1,947	1,052	48	19
%	63.5%	34.3%	1.6%	0.6%
中学校	863	636	29	13
%	56.0%	41.3%	1.9%	0.8%
全体	2,810	1,688	77	32
%	61.0%	36.6%	1.7%	0.7%

○ 「とても必要だと思う」61.0%、「ある程度必要だと思う」36.6%と、ほとんどの保護者が子どもの教育に家庭・地域・学校の連携・協力が必要だと考えている。

問 1 3 子どもたちに身に付けさせたい次の能力は、家庭・学校のどちらが担うべきだと思いますか。

① あいさつや礼儀など、社会生活を送る上で必要な態度、習慣

	家庭	どちらかといえば家庭	どちらかといえば学校	学校
小学校	1,590	1,318	150	37
%	51.4%	42.6%	4.8%	1.2%
中学校	815	658	55	13
%	52.9%	42.7%	3.6%	0.8%
全体	2,405	1,976	205	50
%	51.9%	42.6%	4.4%	1.1%

○ 「家庭」「どちらかといえば家庭」は、94.5%である。

○ 小学校、中学校、年代層の違いで大きな差異はない。

② 友だちをつくることやコミュニケーション能力

	家庭	どちらかといえば家庭	どちらかといえば学校	学校
小学校	173	390	1,990	521
%	5.6%	12.7%	64.7%	16.9%
中学校	98	201	947	294
%	6.4%	13.1%	61.5%	19.1%
全体	271	591	2,937	815
%	5.9%	12.8%	63.7%	17.7%

- 「どちらかといえば学校」が一番多く63.7%、「学校」17.7%と合わせると、81.4%である。
- 教員調査の「小中学校の教育でどんな力を身に付けさせるべきか」という設問では、「友達をつくることやコミュニケーション能力」は、84.1%と高く、保護者の期待とともに、教員もその必要性を強く認識している。
- 家庭では、親子や兄弟姉妹関係の中で、コミュニケーション能力をつけ、学校では集団の中でのコミュニケーション力をつけるなど、家庭と学校が連携して子どもたちのコミュニケーション能力を含めた、対人関係能力を高めていく必要がある。

③ たくましく生きるための健康や体力

	家庭	どちらかといえば家庭	どちらかといえば学校	学校
小学校	619	1,191	1,068	173
%	20.3%	39.0%	35.0%	5.7%
中学校	283	495	621	126
%	18.6%	32.5%	40.7%	8.3%
全体	902	1,686	1,689	299
%	19.7%	36.8%	36.9%	6.5%

- 「家庭」「どちらかといえば家庭」は、56.5%、「学校」「どちらかといえば学校」は、43.4%と明確な役割分担ができない項目であるといえる。
- 問3の「小中学校の教育で、どんな力を身に付けさせることを期待していますか。」で、「たくましく生きるための健康や体力」は、34.3%であるが、教員調査では、52.7%であり、教員は学校の教育現場で力を付けていく必要性を感じている。

問14 あなたの学校区（地域）では、子どもの教育について家庭・地域・学校の連携・協力が十分行われていると思いますか。

	そう思う	どちらかというそう思う	どちらかというそう思わない	そう思わない
小学校	514	1,973	459	108
%	16.8%	64.6%	15.0%	3.5%
中学校	213	962	285	66
%	14.0%	63.0%	18.7%	4.3%
全体	727	2,935	744	174
%	15.9%	64.1%	16.2%	3.8%

- 「そう思う」は15.9%、「どちらかというそう思う」は64.1%であり、自分の学校区（地域）で家庭・地域・学校の連携がある程度行われていると考えている保護者は80.0%である。

- 小学校、中学校、年代別等で大きな差異はない。
- 問12の設問、「家庭・地域・学校が連携・協力し合うことは、子どもの教育に必要なことだと思いますか。」について、97.6%の保護者が、「必要だと思う」「ある程度必要だと思う」と回答していることから考えると、家庭・地域・学校の連携はまだ十分であるとはいえない状況にある。

〈参考〉保護者と教員の意識の比較

あなたの学校区(地域)は、子どもの教育について家庭・地域・学校の連携・協力が十分行われていると思いますか				
	そう思う	どちらかというと思う	どちらかというと思わない	そう思わない
保護者全体	15.9%	64.1%	16.2%	3.8%
教員全体	13.1%	68.3%	17.3%	1.3%

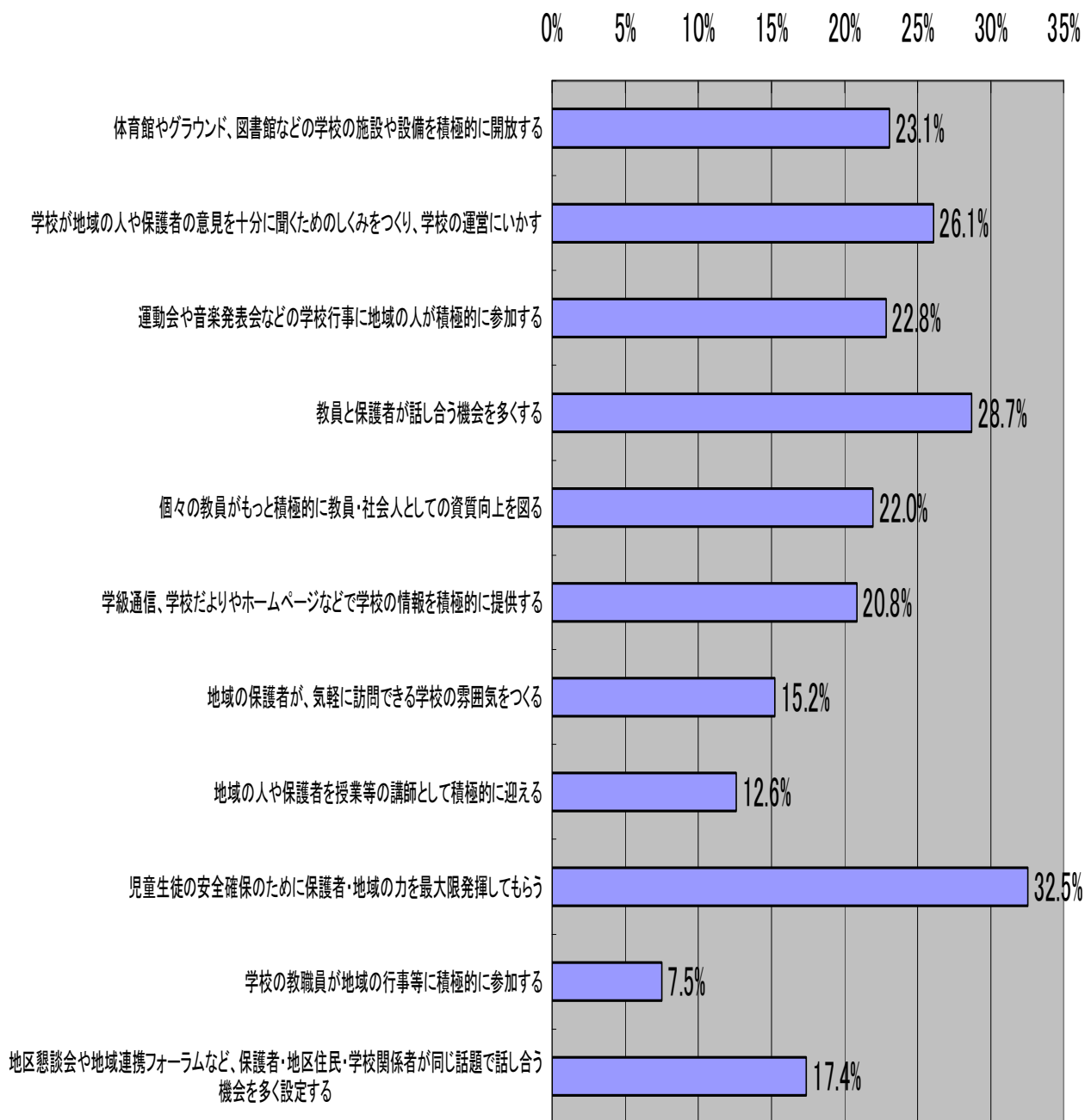
- 上記参考のように、学校区（地域）における子どもの教育についての家庭・地域・学校の連携・協力の状況に関する、保護者と教員の認識は、ほとんど同じである。

〈参考〉「自分の学校区（地域）で、子どもの教育について家庭・地域・学校の連携・協力が十分に行われていると思いますか。」についての回答と学校行事への参加意識

		学校行事(授業参観、PTAの会合、体育祭や音楽発表会)の参加			
		積極的に参加している	ある程度参加している	あまり参加していない	ほとんど参加していない
連携は十分か	そう思う	36.7	55.1	5.9	2.3
	どちらかというと思う	30.2	59.7	7.6	2.4
	どちらかというと思わない	24.0	58.6	12.6	4.8
	そう思わない	21.5	61.0	9.3	8.1

- 自分の学校区（地域）で、子どもの教育について家庭・地域・学校の連携が十分に行われているという意識の保護者は、学校行事に「積極的に参加している」という割合が高い。問2の設問「あなたは学校行事（授業参観、PTAの会合や行事、体育祭や音楽発表会）に積極的に参加していますか。」で、「積極的に参加している」は小学校34.9%、中学校19.2%である。また、中学校では「あまり参加していない」「ほとんど参加していない」が22.8%にもなる。保護者も仕事を持っており、参加したくても参加できない状況も多いと考えられるが、より多くの保護者が学校に足を運び、学校の様子や児童生徒の活動の様子を見て、教員とコミュニケーションをとることは、家庭・地域・学校の連携の最も大切なことのひとつである。保護者には、学校行事等に積極的に参加していくことが連携・協力の重要なポイントであることを理解し、行動していくことが求められる。また、学校も保護者参加の行事について、行事の内容、時期、日程等を見直し、より多くの保護者が参加できるように検討し、実態に応じて改善を加える必要がある。

問 15 家庭・地域・学校がより連携・協力し、子どもたちの教育を進める上で、重要であると考える取組に○をつけてください。(○は3つ以内)



- 上位3項目は、①「児童生徒の安全確保のために保護者・地域の力を最大限発揮してもらう」、②「教員と保護者が話し合う機会を多くする」、③「学校が地域の人や保護者の意見を十分に聞くためのしくみをつくり、学校の運営にいかす」であるが、他の項目も、「体育館やグラウンド、図書館などの学校の施設や設備を積極的に開放する」23.1%、「運動会や音楽発表会などの学校行事に地域の人が積極的に参加する」22.8%、

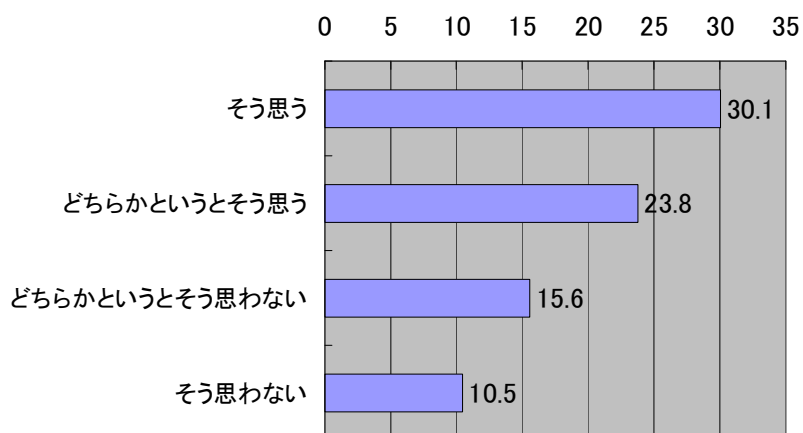
「個々の教員がもっと積極的に教員・社会人としての資質向上を図る」22.0%、「学級通信、学校だよりやホームページなどで学校の情報を積極的に提供する」20.8%と他の項目とも大きな開きがなく、家庭・地域・学校がより連携・協力し、子どもたちの教育を進めるためには、様々な取組を関連させて行うことが必要性である。

- 年代別に15ポイント以上の開きがある項目は、「個々の教員がもっと積極的に教員・社会人としての資質向上を図る」は、20代保護者は、10.9%であるが、年代を追うごとに増え、50代は29.7%となり、教員の資質向上への必要性を強く感じている。また、「児童生徒の安全確保のために保護者・地域の力を最大限発揮してもらう」は、20代保護者43.6%であるが、年代を追うごとに減少し、50代では32.4%となる。これは、自分の子どもの年齢、学年等に関係していると思われる。
- 「地区懇談会や地域連携フォーラムなど、保護者・地区住民・学校関係者が同じ話題で話し合う機会を多く設定する」は、50代保護者は、27.6%であるが、若い年代になると減少し、20代保護者では、6.9%となる。若い年代の保護者が、地区懇談会等の大勢の集まりにあまり期待していないことが伺える。
- 「体育館やグラウンド、図書館などの学校の施設や設備を積極的に開放する」については、保護者は23.1%であるが、教員は7.9%と低い。
- 「地域の保護者が、気軽に訪問できる学校の雰囲気をつくる」「地域の人や保護者を授業等の講師として積極的に迎える」の2項目は、教員の数値が保護者より10ポイント以上高い。

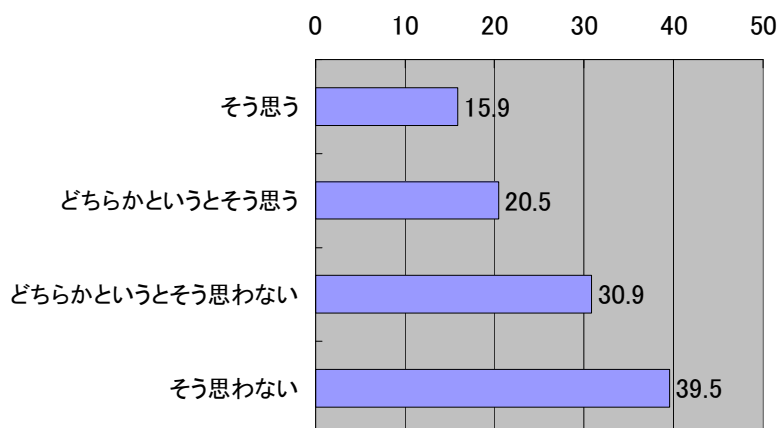
〈参考〉「自分の学校区（地域）では、子どもの教育について家庭・地域・学校の連携・協力が十分に行われていると思いますか。」への回答と家庭・地域・学校がより連携・協力して子どもの教育を進める上で、重要であると考える取組との関連

（「そう思う」と回答した保護者と「そう思わない」と回答した保護者とで、10ポイント以上の開きがある取組）

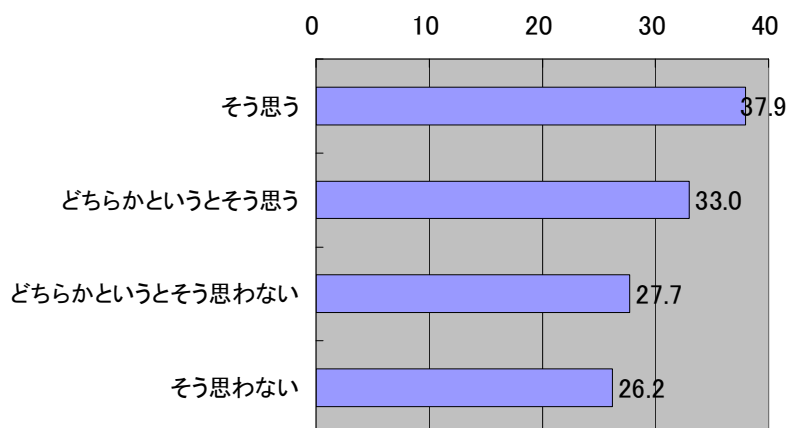
◇ 運動会や音楽発表会などの学校行事に地域の人が積極的に参加する。



◇ 個々の教員がもっと積極的に教員、社会人としての資質向上を図る。



◇ 児童生徒の安全確保のために保護者・地域の力を最大限発揮してもらおう。



- 「自分の学校区（地域）の家庭・地域・学校の連携・協力が十分行われていると思いますか。」に「そう思う」と「そう思わない」と回答した保護者との間に10ポイント以上の開きがあるものは全体で3項目である。
- 今後、家庭・地域・学校の連携・協力をより推進していく取組を考える上で、自分の学校区（地域）の家庭・地域・学校の連携・協力について、「十分行われている」と考える保護者と「十分ではない」と考える保護者の意識や要望の違いを含めて検討することも大切である。

問 16 あなたの地域活動への参加や地域の子どもたちを対象とする活動について質問します。

① 地域の子どもと一緒に遊んだり、スポーツをするような活動について

	積極的にやっている	たまにやっている	あまりやらない	まったくやらない
小学校	482	1,182	1,052	354
%	15.7%	38.5%	34.3%	11.5%
中学校	171	508	560	302
%	11.1%	33.0%	36.3%	19.6%
全体	653	1,690	1,612	656
%	14.2%	36.7%	35.0%	14.2%

- 全体では、「積極的にやっている」「たまにやっている」が50.9%である。
- 「積極的にやっている」は、小学校男性保護者が20.8%で一番高い。小学校は放課後部活動やスポーツ少年団の指導者等に保護者が携わるケースが多いことが要因として挙げられる。

② 町内のお祭りや運動会など地域の行事への参加について

	積極的に参加している	たまに参加している	あまり参加していない	ほとんど参加していない
小学校	1,752	1,073	171	81
%	56.9%	34.9%	5.6%	2.6%
中学校	626	651	151	112
%	40.6%	42.3%	9.8%	7.3%
全体	2,378	1,724	322	193
%	51.5%	37.3%	7.0%	4.2%

- 「積極的に参加している」は小学校保護者で56.9%、中学校保護者で40.6%、全体でも過半数と越える51.5%の保護者が地域のお祭りや運動会などの行事には積極的に参加している。「たまに参加している」と合わせると88.8%となる。
- 「あまり参加していない」「ほとんど参加していない」は、中学校の保護者で17.1%であるが、児童生徒調査での「あまりない」「ほとんどない」は、中学2年生は23.2%、中学3年生は31.7%となり、保護者よりも子どもが参加していない状況がある。

③ 地域の子どもがいたずらや悪いことをしたときにしかること。

	かなりある	たまにある	あまりない	ほとんどない
小学校	219	1,826	789	245
%	7.1%	59.3%	25.6%	8.0%
中学校	80	747	521	191
%	5.2%	48.5%	33.9%	12.4%
全体	299	2,573	1,310	436
%	6.5%	55.7%	28.4%	9.4%

○ 「かなりある」「たまにある」を合計すると62.2%である。

〈参考〉児童生徒の実態「いたずらや悪いことをして、町内や地域のおとなにしかられた。」

	かなりある	たまにある	あまりない	ほとんどない
小学校全体	1.5%	7.0%	17.1%	74.5%
中学校全体	1.5%	9.1%	19.1%	70.3%

○ 児童生徒アンケートの「いたずらや悪いことをして、町内や地域のおとなにしかられた」という設問に「かなりある」「たまにある」と答えたのは、小学生は8.5%、中学生は10.6%である。また、「ほとんどない」は、保護者が9.4%であるのに対し、小学生、中学生ともに70%を越えており、保護者と子どもたちの意識の違いは大きい。保護者は、叱ったつもりでも、子どもたちにはしかられた感覚が薄いのではないかと考えられる。

④ 町内や地域の子どもが良いことをしたときにほめること。

	かなりある	たまにある	あまりない	ほとんどない
小学校	346	1,827	705	198
%	11.2%	59.4%	22.9%	6.4%
中学校	138	785	465	146
%	9.0%	51.2%	30.3%	9.5%
全体	484	2,612	1,170	344
%	10.5%	56.7%	25.4%	7.5%

○ 「かなりある」「たまにある」を合計すると67.2%となり、「地域の子どもがいたずらや悪いことをしたときにしかること」とほぼ同様の数値となる。

○ 年代別で大きさ差異はないが、中学校保護者より、小学校保護者の方が数値は高いことは、小学校保護者の方が子どもたちにかかわる場面が多いためであると考えられる。

- 児童生徒調査では、「かなりある」「たまにある」は、小学生55.1%、中学生41.6%であり、子どもと地域の大人との関係では、ほめられたことの方が、叱られたことよりも子どもの心に残っているのではないかと考えられる。

⑤ 地域のボランティア活動について

	積極的に参加している	たまに参加している	あまり参加していない	ほとんど参加していない
小学校	348	1,140	846	730
%	11.4%	37.2%	27.6%	23.8%
中学校	169	611	384	377
%	11.0%	39.6%	24.9%	24.5%
全体	517	1,751	1,230	1,107
%	11.2%	38.0%	26.7%	24.0%

- 全体では49.2%が「積極的に参加している」「たまに参加している」と答えており、小学校、中学校で大きな差はない。

〈参考〉年代別の割合

	積極的に参加している	たまに参加している	あまり参加していない	ほとんど参加していない
20代	8.9%	22.8%	25.7%	42.6%
30代	9.9%	37.2%	26.9%	26.0%
40代	12.5%	39.5%	26.6%	21.4%
50代	14.5%	38.6%	26.2%	20.7%

- 年代別の数値を見ると、年代層の高い保護者ほど、地域のボランティア活動に積極的であるといえる。「ほとんど参加しない」と回答した割合を見ても、20代では42.6%、と、若い年代層の保護者が、地域のボランティア活動などへの参加が消極的であることが数字に表れている。
- 児童生徒調査では、「積極的に参加している」「たまに参加している」と回答した割合は、小学生53.6%、中学生41.5%であり、保護者の数値と大きな差はない。保護者の意識が子どもの行動に影響していると考えられるので、地域では若い保護者を巻き込んで実施できるような活動を検討していくことも必要と考えられる。

⑥ 町内や地域の子どもたちと道であったとき、あいさつをしたり声をかけたりすることについて

	積極的にしている	時々している	あまりしていない	ほとんどしていない
小学校	1,267	1,525	213	77
%	41.1%	49.5%	6.9%	2.5%
中学校	596	776	122	57
%	38.4%	50.0%	7.9%	3.7%
全体	1,863	2,301	335	134
%	40.2%	49.7%	7.2%	2.9%

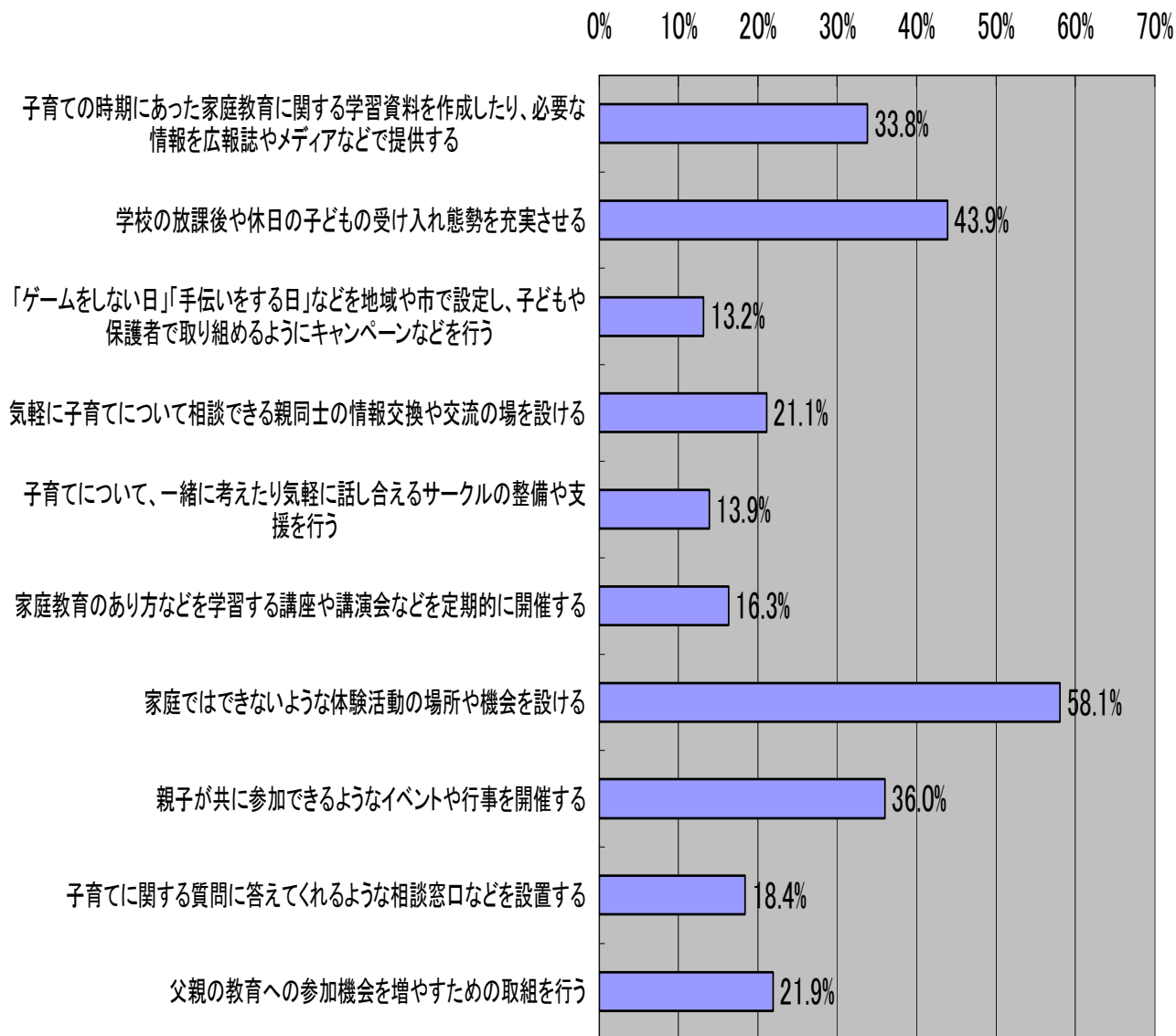
- 全体では「積極的にしている」40.2%、「時々している」49.7%、合計すると89.9%となり、多くの保護者が、町内や地域の子どもにあいさつをしたり声をかけるようにしている。
- 小学校と中学校、年代別等で大きな差はない。
- 児童生徒調査では、「道路であったときなど、町内や地域のおとなとあいさつをかわしている」に「かなりある」「たまにある」と回答した割合は、小学生80.5%、中学生73.5%である。特に、中学生2年生から「ほとんどない」が倍増し、14%を超える。小学生、中学生を問わず、地域や町内の大人とあいさつを交わす運動や取組を学校や地域、家庭が連携・協力しながら実施することが大切と考えられる。

⑦ 町内や地域の伝統文化、歴史について教えるような活動について

	積極的にしている	時々している	あまりしていない	ほとんどしていない
小学校	119	452	992	1,484
%	3.9%	14.8%	32.6%	48.7%
中学校	50	240	508	733
%	3.3%	15.7%	33.2%	47.9%
全体	169	692	1,500	2,217
%	3.7%	15.1%	32.8%	48.4%

- 「積極的にしている」「時々している」を合計しても、20%に満たない。町内や地域でこのような機会が減少していることが大きな要因であると考えられる。
- 児童生徒意識調査では、「地域の伝統や歴史などについて教えてもらった」という設問に、「かなりある」「たまにある」は、小学生26.4%、中学生19.4%であり、全体的には保護者の数値と同じ傾向である。

問 17 あなたは家庭教育への支援として行政（市役所）にどんなことを期待していますか。特に必要であると思うことに○をつけてください。（○は5つ以内）



- 保護者の期待で一番多い項目は、「家庭ではできないような体験活動の場所や機会を設ける」である。「親子が共に参加できるようなイベントや行事を開催する」も、36.0%であり、保護者がイベントや行事の開催を期待していることがわかる。
- 子育てに関する情報提供等に関する項目については、「子育ての時期に合った家庭教育に関する学習資料を作成したり、必要な情報を広報誌やメディアなどで提供する」は、33.8%と高いが、「サークル支援」「講座や講演会の開催」「相談窓口の設置」などは、いずれも20%未満である。人と接しながら学習したり情報提供を受けるようなシ

システムより、広報誌やメディアでの発信を望んでいることがわかる。

- 保護者意識調査の男性の回答者数は、516人で全体の11%である。圧倒的に女性の回答者が多かったが、「父親の教育への参加機会を増やすための取組を行う」は、男性21.5%、女性22.0%と大きな差異もなく、全体でも5番目の項目であった。
- 放課後や休日の子どもの受け入れ体制の充実については、自由記述を含め多くの保護者が期待している。働く保護者の切実な希望があるのであろうが、子どもの預かり時間の延長や休日等も他の機関で子どもを預かることが、本当に子どものためによいことであるのか、家庭教育支援につながるのかなども含めて考えていく必要があると考えられる。
- イベントや行事の開催に関する項目は、若い年代の保護者の数値が高く、家庭教育に関する資料の作成、講演会等の開催などの項目については、若い年代の保護者の数値は低い。保護者の年代層、子どもの年齢等により、保護者の期待も様々であることがわかる。

○ その他（自由記述）

小学校保護者

- ◇ 児童館、児童クラブに関すること
 - ・ 児童館の受入時間延長 24
 - ・ 学童保育の充実や指導員の指導力向上 7
 - ・ 児童館の設置 5
 - ・ 放課後、休日の児童館の開放 5
- ◇ 費用等の補助について
 - ・ 医療費、児童手当等の費用面の補助拡大 20
- ◇ 施設、設備に関して
 - ・ 運動施設や遊び場所の設置と整備 18
 - ・ 降雪時の運動、遊びのスペース整備 8
 - ・ 図書館の設置、整備や司書の配置 4
- ◇ 環境整備等に関して
 - ・ 子育てしやすい環境の整備（企業や行政への働きかけ） 18
 - ・ 働く母親への支援や援助 4
 - ・ 気軽に相談できる人、場所の設置 5
- ◇ 学校教育に関して
 - ・ 週5日制を見直し、土曜日を授業日にする 11
 - ・ クラブ活動、運動活動、大会の充実 7
 - ・ 教員の資質向上 8
- ◇ その他
 - ・ 地域や子どもたちの活動場所の安全確保 8
 - ・ 親子で参加できるイベントの開催等 6
 - ・ 親の家庭教育への啓発 5
 - ・ スクールバスの利用、送迎バスの運行 5
 - ・ 障害のある子ども、家庭への配慮 3

- ・お年寄りとの交流の推進 3
- ・校長への権利委譲、母子家庭の援助、教員の増員、行政職員の資質向上、ボランティア活動の推進、家庭・学校の役割の再認識

中学校保護者

- ◇ 児童館、児童クラブに関すること
 - ・児童館の受入時間の延長 3
- ◇ 費用等の援助について
 - ・教育にかかる費用の援助 7
- ◇ 施設、設備に関して
 - ・運動施設や遊び場所の設置や整備 3
 - ・学習施設、図書館の整備 3
- ◇ 環境整備等に関して
 - ・休みをとりやすい等、子育てしやすい環境の整備（企業や行政に働きかける） 10
 - ・相談員、教育支援員の整備や相談場所の配置 5
- ◇ 学校教育に関して
 - ・週5日制の見直しと土日の活用 4
 - ・部活動の充実、指導者の派遣等 4
 - ・教員の資質向上 5
- ◇ その他
 - ・親の家庭教育への啓発 10
 - ・親子で参加できるイベントの開催等 3
 - ・地域や子どもたちの活動場所の安全確保 2
 - ・スクールバスの利用、送迎バスの運行、校長への権利委譲、母子家庭への援助、行政職員の意識向上、ボーイスカウトの充実、行政で学習を行えるような塾の立上げ、食育の推進、2学期制の見直し、障害者のいる家庭への支援